郷土の偉人

治水にかけた信念の軌跡

金原明善翁

天保３年和田村安間(現安間町)に生まれ、生涯を社会公共事業に捧げた、明治の実業家である。

安間町出身

金原明善翁

天竜川：諏訪湖を源流に長野、愛知、
静岡を経て遠州灘へ213キロ

天竜川

時は江戸時代の終わり頃です。「おーい堤防がきれたぞー」「みんな早く逃げろー」危険を知らせるどなり声や悲鳴に村中が大さわぎです。堤防の切れたところから濁流が狂ったように流れ込み家もたんぼもみるみるうちに水にのまれていきます。

逃げ遅れた人たちや家畜も流されていくのに誰も助けることができず、なすがままの状態でした。

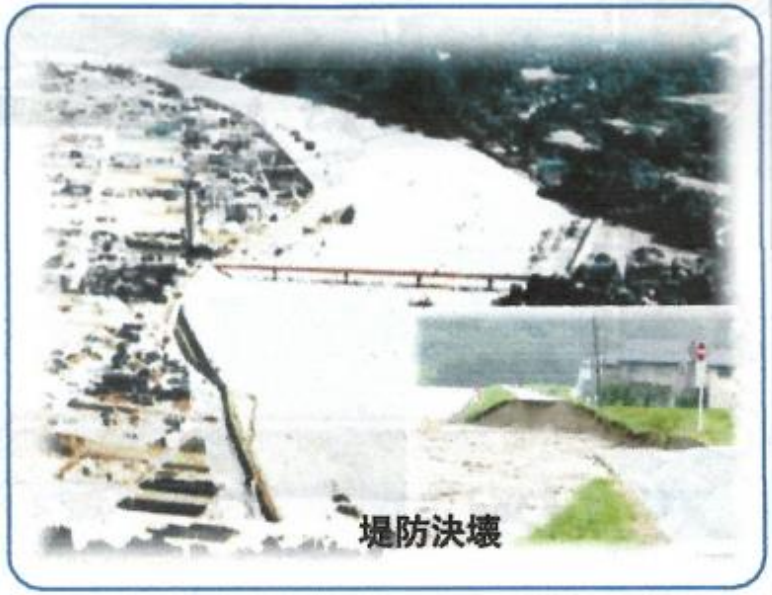
「この川はいったいいつ迄わしらを苦しめるのだぁ」　「家も畑もみーんな流されちゃつたあ」

大雨が降るたびに何度も大洪水に苦しめられてきた人々はいつしか、この川を暴れ天竜と呼ぶようになりました。

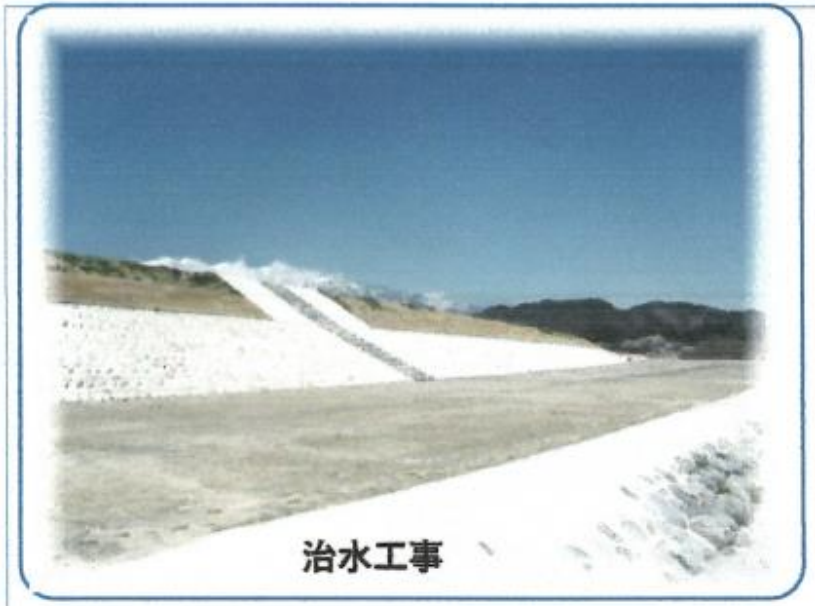
その頃この辺りを治めていた殿様も役人もただ川が鎮まるのを待つだけで洪水を防ぐ方法を真剣に考える人は誰一人もいませんでした。そんな時に人々が苦しんでいる姿をこれ以上は見ていれないと一人の男が立ち上がりました。

その若者の名は金原弥一郎、後の金原明善である。安間村(現在の東区安間町)天保３年(1832)に生まれた明善は村を救うただ一つの手段・・・

それは誰も手をつけたことのない、治水事業を行うことだと考え決心をしました。先祖代々の金原家の財産をその事業の費用に充てる決心をして行動がはじまりました。



堤防決壊


治水工事

明治時代に入り、暴れ天竜に頭を抱えていた政府は自らの財産を差し出そうとしている明善に心を動かされついに堤防工事の許可を与えました。ようやく始まった堤防工事、　しかしその間にも洪水はたびたび起こり其のたび堤防は壊れ、それを直すのに精一杯であきらめかけた人々の前に明善はふと大事な事に気づいたのです。
山に降った雨が一気に川に流れでるから氾濫するんだ山に木を植えれば雨水は一気に出てこない。
そこで大掛かりな植林計画が始まりました。しかし

堤防工事で財産を使い残りを全て出し、後は再び政府にお願いしかなく、当時の大臣大久保利通に面会し暴れ天竜の治山治水計画を申し入れたのです。
そこで大臣は明善の決意と情熱に心を動かされ工事を任せる許可をしたそうです。
明善の植林に対する情熱に村の人たちも応援をするようになり、それから数年後木も育ち始めると暴れ天竜も少しずつ穏やかな川に姿を変えてきたのであります。
尚この大きな仕事と並行して明善が力を注いだ静岡勧善会については別途まとめ報告いたします。

治山工事

タジマ

WSC

薬師町　　田島昭次

歴史に残る人々

小枝粂次郎　(小枝来舗)　**金原明善**　高柳健次郎

杉浦睦夫　鈴木暦太郎　大橋島太郎　石山脩平

その他和田地区の偉人をご存知の方ご一報ください

090-8671-6548　田島

和田地区偉人R-2

次回　高柳健次郎氏